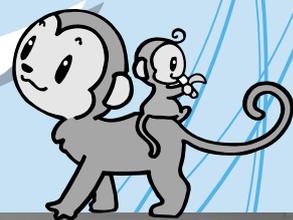


創造

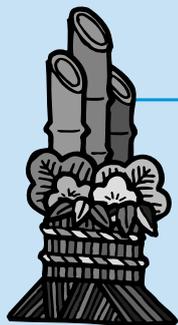
JA いけだ
CREATION



謹賀新年



今月号の表紙写真は、12月14日（月）に行われた、フレッシュミズ忘年会での集合写真です。久しぶりに会った会員同士、話に花を咲かせていました。



CONTENTS

- * 平成28年の新年を迎えて
- * 平成28年の年頭にあたり
- * 平成27年産豆類生産状況
- * 21NEWS アラカルト
- * シリーズ 協同組合と報徳
- * 営農計画書提出期限について
- * 金融共済課より
- * 畜産部通信
- * 未来人
- * 今月の1枚
- * 理事会の動き
- * 編集後記

2016.

JANUARY

No.073



平成28年の新年を迎えて

十勝池田町農業協同組合

代表理事組合長 鈴木雅博

平成28年の新年を迎え、組合員の皆様はじめご家族の皆様にご挨拶です。また、日頃より農協事業にご理解とご協力を戴き厚くお礼申し上げます。

昨年は、地域農業、農協を取り巻く状況が大転換を示す年でありました。特に、TPPが昨年10月に大筋合意されたのは非常に残念な事でありました。情報が開示されずに国論を二分しながら5年半、日本が交渉に参加して2年あまりでの合意となりました。各国の主権と国益がぶつかり合う中で日本の立場は守られたのでしょうか、医療やSD条項など21分野のなかで農業だけが過保護のように報道されながら進められた気がします。合意以後、農業者の不安にすばやく応えるため国内対策を次々と打ち出していますが、今年の参議院選挙対策も見え隠れする状況です。日本はEUや中国、韓国ともEPA交渉をしており、TPPは日本が世界に向けて関税撤廃をアピールした始まりで

あります。その影響はどの様になるのか、国内対策、農業対策は5年10年の対策では無く、深く検証しながら長期的な農業政策が必要であります。日本の国会、参加各国の国内で批准する審議が終わるまで、すべて決着したわけではありません。農業者が安心して営農できるように、農村社会を維持できるように対策を求めていく必要があります。

さらに、農協改革では、農政運動の旗振り役をする全中を弱める事や、外資系の金融機関が狙う農林中金、共済連、さらには、全農の株を取得し日本の食糧流通に介入を謀る外資系の農業種子メーカー等の圧力が背景にあります。農業連合会に対する中傷に惑わされぬ冷静な判断と強固な連携が大切な時であります。組合員各位の深いご理解を宜しくお願い致します。

があり、少雨のため生育への影響を受けながらも、過去最高の農業生産額を記録する事が出来ました。

畑作生産額では前年対比110%の4億9千万円となりました。特に、小麦の製品収量は全戸平均で、12・6俵/10aを記録し、管内最高の収量でありました。豆類は、価格が低迷しておりますが、昨年に続く高収量で生産額の減少を補っており、また甜菜、馬鈴薯とも高収量で昨年を上回っております。長いものは、価格低迷と面積減少で平成21年には9千百万円の生産額に落ちましたが、当JAの特産品ネバリストアとして3億6千万円の生産額が見込まれます。

の四季を通じての作業が報われる生産年となりました。畑作、畜産部門の合計生産額は、前年比112%の62億円を超える金額となり、初の60億円を超える生産額となりました。これに農業共済、奨励金を足した総計では67億3千万円と見込まれます。

当JA組合員各位の生産技術の高さ、営農に対する真摯な姿勢に心から敬意を申し上げます。また、職員の出向指導チームと組合員との、双方方向の情報交換が定着してきた事も成果に現れていると思われまます。今後指導チームのさらなる向上のため、生産者各位からの助言、ご協力をお願い申し上げます。

TPP大筋合意や産業競争力会議、規制改革会議など内外からの圧力を受け、生産環境に変化があっても地域農業を守り次世代に引き継ぐのが、私達現役世代の大きな役目でありまます。地域で生産される農畜産物は、輸入農畜産物だけではなく、国内産地との競合も当然あることです。そのために、今取り組んでいるのが、池田町農協ブランド戦略です。安全、安心は当然の事としてブランドの価値の中心に「おいしさ」を基準として美味しさの数値化に挑戦しております。味覚センサーや人間が食べた官能試験などに取り組み、取引先と一緒に消費者の皆さん

から喜んで頂き、選ばれる産地を目指します。産地の勝手な「おいしさ」基準ではなく、広告宣伝費をかけた虚像ではない、信頼される「おいしさ」を伝えていく池田ブランドの構築を目指します。実需者、消費者から選ばれる産地として池田農業のファンを作り続けることが、重要な事と考えまます。

農協合併については、昨年の通常総会において「合併検討委員会」から「推進委員会」に移行し、現在、営農・農産・畜産・金融共済・購買・管理・各部門ごとに両農協の職員で構成された、それぞれの部会で「新JA構想」として取りまこめております。それを推進委員会で検討し、組合員の皆さんからのご意見を戴きながら、実現に向かい進めてまいります。内外の環境変化に対応し、永続的に発展する池田町農業として大切な時期と認識しております。組合員の皆様の深いご理解をお願い申し上げます。

結びに、組合員の皆様には、今年も農協事業への積極的参加とご指導、ご協力をお願い申し上げます。本年が安心して暮らせる穏やかな年であり、穏やかな年でありまますようご祈念を申し上げます。





平成28年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田稔章

組合員並びにJA役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい新年を迎えられたものとお心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年の北海道農業は、一部地域において暴風雨被害が発生するなどの影響がありました。また、全体的にはおおむね順調な作柄となりました。

皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、昨年の11月11日に、組合員やJA役職員等、関係者の方々の参加のもと、第28回JA北海道大会が開催されたところです。

「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅

力ある農村」をメインテーマとして、向こう3か年にわたるJAグループ北海道の対応方針を確認いただきました。

組合員・JA・連合会・中央会が、各役割を再確認した中で、JAグループ北海道の英知を結集し、基本目標の達成に向け取り組んでいくとともに、北海道550万人から信頼され、ともに歩んでいくJAグループ北海道を目指す

こととしております。関係各位の特段なるご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

平成27年は、農協改革法案の成立、TPP交渉の大筋合意など、我が国の農業・JAにとって極めて大きな情勢変化があった一年でした。

農協改革については、その主要な目的でもある法改正と

農業所得向上の関連性などについて、いまだに十分な理解が進まない中、准組合員制度のあり方や監査の仕組みなどの重要案件が今後の検討課題となっており、改めて地域農業の振興や農協経営への影響

がないよう、政府に対する働きかけを含め、関連する取組みを進めていく必要があります。

一方、TPP交渉に関しては、交渉参加12か国の閣僚会合を経て、昨年の10月5日に大筋合意がなされましたが、守秘義務を盾に交渉に関する情報開示や国民的議論がないままに、大筋合意という結果に至ったことに対して、強い

憤りを覚えるところです。今後、通常国会においてTPP交渉に係る国会審議がなされる予定ですが、改めて、

政府並びに各国会議員に対して、今回の合意内容の全容と影響、さらには国会決議との整合性について十分な説明責任を果たすとともに、生産者の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万

全な対応がなされるよう強く求めていく必要があります。

世界規模での異常気象の発生、人口増加、経済情勢の変化などを背景に、国際的な食料の需給事情は常に不安定な要因を抱えており、我が国として、先を見据えた中で食料自給率の確保などによる食料の安全保障体制をいかに確立していくかが問われています。

言うまでもなく、農業は、食料の安定供給という、国民生活に欠かすことができない極めて重要な役割を担っている生命産業であり、その役割は未来永劫変わることはありません。

我々農業者・JAグループは、その責任感と自負心のもと、改めて協同の精神に立ち返った中で、現下のさまざまな課題を克服すべく、力を合

わせていくとともに、農業・JAに対する幅広い理解と共感を得る取組みを積極的に進めながら、長年にわたり先人が築き上げてきた本道農業並びに農業協同組合の基盤をさらに発展させ、後世に継承するよう、ともに頑張ろうではありませんか。

今年の干支は申年（さるどし）です。

一説には、申は、伸ばすという意味があり、「草木が十分に伸び、実が成熟していく時期」を表していることとであります。

今年は、この申年にあやかり、天候に恵まれ実り多い充実した一年となりますよう、併せて、北海道農業並びにJAグループ北海道の一層の発展を心よりご祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。



平成27年産豆類生産状況

生育状況

平成27年産は播種時期の天候、圃場条件にも恵まれ、作業は順調に進んだ年でありましたが、積算降水量、積算日照時間でもわかるように、降雨が少なく、乾燥状態が続き、発芽直後の生育にはばつつきが見られる圃場が散見されました。

表1 平成27年 池田町作況圃の生育経過

(上段27年、下段平年)

作物	出芽始	出芽期	開花始	開花期	成熟期
大豆	5/27	5/30	7/18	7/21	10/ 3
	5/30	6/ 2	7/21	7/23	10/ 6
小豆	6/ 1	6/ 3	7/25	7/28	9/17
	6/ 4	6/ 6	7/27	7/29	9/15
金時	6/ 4	6/ 6	7/12	7/14	9/ 3
	6/ 8	6/10	7/12	7/14	9/ 3
手亡	6/ 4	6/ 6	7/22	7/24	9/15
	6/ 6	6/ 8	7/22	7/24	9/14

表2 平成27年 池田町作況圃の莖長(cm)及び着莢数(個数/m²) (上段27年、下段平年)

莖長	6月15日	7月1日	7月15日	8月1日	8月15日	着莢数	8月15日	9月1日	9月15日
大豆	8.2	17.5	38.7	70.7	76.6	大豆	452.9	530.1	530.1
	7.1	16.3	36.5	64.9	72.2		405.2	504.5	509.4
小豆	3.0	5.0	9.8	30.2	51.5	小豆	110.8	273.2	273.2
	2.9	4.4	10.3	24.6	41.8		113.2	272.3	297.2
金時	5.3	13.1	22.7	45.8	45.5	金時	127.2	137.6	167.6
	5.5	12.3	34.3	48.6	50.1		134.2	134.7	133.7
手亡	4.8	8.3	21.0	54.3	54.3	手亡	160.6	189.2	189.2
	4.2	8.1	31.5	46.9	50.0		161.2	204.2	213.0

地区別生産状況

当JAの平均収量は、エリモ小豆で5俵、金時で4・2

俵。また6月上旬には、強風と降霜により、出芽期を迎えた小豆を中心に被害がでた年でもあり、その後も干ばつ傾向となったことから生育が停滞し、7月15日の作況では大豆を除き、莖長が平年を大きく下回り、畝が塞がらない状況でもあり、心配の声が沢山聞かれた年でもありました。しかし、その後は適度な降水と気温により生育が回復し、病気の発生も少なく収穫期を迎えることができました。ここ数年続いた金時の色流れも少なく、小豆は色の浅い粒が多くバラつきが見られました。昨年同様、手亡と共に粒が大きく、昨年に続く高収量となりました。

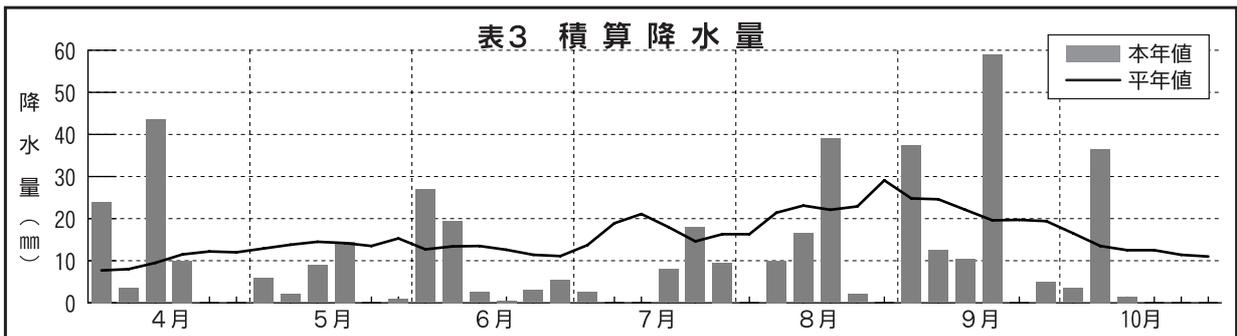
雑豆の需給状況

◆小豆類…近年の指標を上回る作付と、2年続いた豊作もあり、在庫が大幅に増加し、相場の低迷を招いています。多くのユーザーがエリモ小豆の安定供給を期待する中、きたるまんの作付が増加し、これが作付と需給のバランスを崩す一つの要因となり、小豆の在庫過多を助長しているとい

俵、絹手亡で5・6俵、普通大豆5俵と昨年に続き平年を大きく上回る実績となっています。収穫期の降雨はありますが、順調に収穫作業を終えることができました。農協の集荷量も44千俵余りとなりましたこと誠にありがとうございます。生産者の皆様の努力の結果に敬意を表します。

今後、安定生産と安定供給ができる産地づくりを進めるため、産地と消費地がより強く手を結ぶことのできる契約栽培に取り組んでいきたいと考えます。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

表3 積算降水量



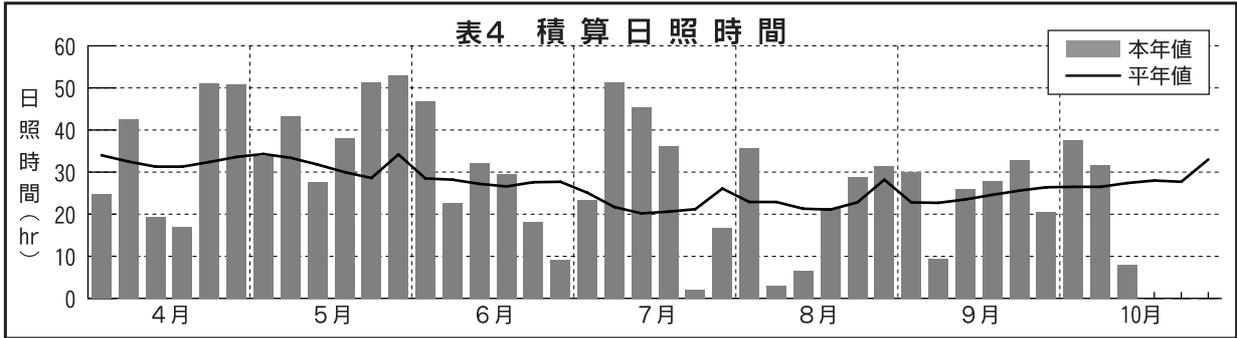


表5 平成27年産 地区別豆類反収

(10a当たり：俵)

地区名	品目	大正金時	福勝金時	エリモ小豆	きたのおとめ小豆	きたろまん小豆	白小豆	絹手亡	姫手亡	福白金時	光黒大豆	普通大豆
清見	1	3.4	3.5	4.9	3.8	3.4		5.3		3.5		
清見	2	3.6	3.7	4.6	4.7			4.8	4.3			
昭栄	南	4.0		6.1	5.1	4.5			6.0			
昭栄	北	4.1		5.3				5.6				
東台	1	4.1	4.0	4.4	4.4			5.2		3.1	4.6	
東台	三愛		3.8	5.1								5.2
東台	幹線	3.8	4.3	5.1	4.6			5.0			4.0	
川合	2	4.6	4.9	5.7	6.0		3.5	6.2	5.4			
様	舞	4.4	5.0	4.4						4.1		3.4
池田地区計		4.0	4.1	5.0	4.8	4.0	3.5	5.3	5.2	3.6	4.3	4.3
利別		4.3	4.5	5.1	4.5	5.1		5.3		4.0	4.9	
川合		4.3	4.6	6.0					5.6			
千代田	東南	3.4	4.4	5.0	5.1	5.2		6.0		4.1		
千代田	南	4.6	4.6	5.2		5.2		5.5				
千代田	北			3.4								5.2
豊田	1	4.5	4.5	4.7			3.9	6.5		3.3	4.2	6.0
豊田	2		3.8	5.5				6.0				
青山		5.2	4.8	5.1		4.8	4.9	5.9		3.8	4.9	
利別地区計		4.4	4.5	5.0	4.8	5.1	4.4	5.9	5.6	3.8	4.7	5.6
合	計	4.2	4.3	5.0	4.8	4.5	4.0	5.6	5.4	3.7	4.5	5.0
最	高	5.2	5.0	6.1	6.0	5.2	4.9	6.5	6.0	4.1	4.9	6.0
最	低	3.4	3.5	3.4	3.8	3.4	3.5	4.8	4.3	3.1	4.0	3.4

見る向きもあります。ユーザーの望む品種を安定供給すること、需要の確保、拡大を図る必要があります。大納言につきましては、作付の減少と価格安により供給量の調整が進み、在庫過多の状況が緩和されています。小豆の在庫見込みは約15カ月、大納言は約5か月という現状です。

◇手亡：手亡につきましても、2年続けての豊作で在庫状況が約17か月の見込みとなっており、ここの年で環境が大きく変わっている状況です。当JAでは、絹手亡の契約栽培が長く続いておりませんが、契約栽培は、在庫にさほど余裕もなく、農産センターで絹手亡を調整した後、すぐに御座候に渡す状況にあります。今後必要とされる数量を、必要とされる品位、品質で、安定供給を継続していきたいと思えます。

に期待をされている状況です。

◇福白金時：虎屋との契約栽培品種ですが、2年続けての豊作で在庫がおよそ3年分となることが見込まれています。年間使用数量が限られていることから、需給バランスを保つのが難しく、作付を抑制せざるを得ない状況にあります。

◇黒大豆：在庫状況は約5カ月となり、適正と言える範囲となつています。十勝産の黒大豆は、皮切れの発生が多い年が続く、販売に苦戦していることから、今後も収穫期の水分測定等の対策を継続していきます。

平成27年産は小豆、手亡で特に相場の低迷があり、今年度は、作付が大きく減少するのではないかと多くのユーザーが心配する状況となつています。当JAでは、契約栽培はもとより、スーパーでの小袋販売使用も多くあり、池田町産を評価して頂いております。池田町産を大切に頂くユーザーに、今後も安定供給を継続できますよう、ご協力をお願いいたします。

畜産課



8年ぶりの栄冠、 全道あか牛枝肉共励会 「いけだ牛」が最優秀賞

11月19日、北海道あか牛振興協議会主催「第14回北海道あか牛枝肉共励会」が安平町の(株)北海道畜産公社道央事業所早来工場で開催されました。

この共励会は、道内における褐毛（あかげ）和種・通称あか牛の主産地である池田町と道南木古内町のJA新はこだての生産者が、日頃の飼養管理の成果を競うとともに、相互地域の肥育技術などの研鑽の場として年一度の開催を継続してきたものです。

今回は道南から8頭、池田町の実産者7名より13頭の計21頭出品の中から、豊田地区の朝川悟さんの25ヵ月齢去勢牛が、当地区では実に8年ぶりとなる最高位「最優秀賞」を獲得し、もう1頭の出品牛も全体3位の「優秀賞2席」に入りました。

また、最も褐毛和種らしい赤身肉と刺しのバランスのとれた枝肉に与えられる「あか毛和牛賞部門最優秀賞」は、千代田地区の長島典雄さんが受賞しました。

朝川さんの「最優秀賞」受賞牛の肉質は最高ランクのA-5等級で、霜降り（脂肪交雑）の度合いを示すBMS値が8と、品種的に刺しの入りにくいあか牛にあって黒毛和種に引けをとらず、また、枝肉重量も出品牛平均を100kg近く上回る最高の597kgを記録し、質・量ともに抜群の成績でした。

朝川さんは、年間約250頭の褐毛和種肥育牛を地域団体商標「いけだ牛」として出荷する当JA和牛生産組合あか牛部会（会員数10名）のメンバーで、「黒毛和種に比べ半年ほど短い期間で大きく仕上がり肉量は取れるが、ある程度皮下脂肪を厚くしないと脂肪交雑が進まないという品種特性を理解し、ストレスを与えないよう健康管理に気を使いなから重量と刺しの入り具合を両立させるのが一番難しい」とのことでした。

すでに、就農9年目となる後継者の知輝さんに管理の大部分を任されているそうで、今回の栄誉は家族が協力して勝ち取った成果であり、父のあか牛に託す思いやデータに裏打ちされた肥育の技は、知輝さんにしっかり継承され更に磨きが掛かっていくと思われます。

その他の池田関係入賞者は次の通り。

◇あか毛和牛賞部門優良賞 小原秀樹、太田孝臣、坂東昇一（敬称略） （記事・畜産部長 古川勇一）

畜産課

黒毛若手生産者勉強会

畜産部では11月24日、若手生産者同士の交流と知識向上を目的に標記勉強会を開催しました。十勝農協連・酪農畜産課の山中様を講師にお招きし、「十勝和牛の現状と課題」について講演頂きました。



勉強会の様子

価格が高騰する一方で、繁殖牛の更新が進んでいない事や系統の偏りなどが課題として挙げられ、今後は十勝和牛改良方針に沿った取組みと北海道種雄牛の有効活用により、繁殖牛群全体のレベルを向上させることが重要であるとのことでした。

終了後には懇親会を行い交流が深められました。今後も若手生産者の仲間づくりを推進して参ります。

（記事・畜産部畜産課 米川 武）

農場視察の様子



畜産課

黒牛部会 道内視察研修

黒牛部会では12月3～4日、14名参加のもと安平町・平取町へ視察に行きまして。

1日目はホクレン南北海道家畜市場にて、和牛素牛のセリを視察。

同市場には道北・道南・道央の非常に広いエリアから、2日間で約1700頭が上場され、取引価格は前月の高値を更に上回る過去最高の相場でした。

2日目はJAびらとり管内の農場を訪問。平取町は繁殖・肥育に取り組んでいる歴史ある和牛産地であり、施設や飼養管理状況を見学させていただきました。昼食では「びらとり和牛」を味わうなど、有意義な研修となりました。

(記事・畜産部畜産課 米川 武)

農産課

青果物説明会開催 ～消費地から選ばれる産地へ～

12月4日(金)農協本所にて、青果物説明会を開催致しました。

青果物説明会は、高収益作物である青果物を作付することによって、生産者の所得確保と向上を目的に、平成24年より開催しております。

今回の説明会では、「ネバリスター」「南瓜」「馬鈴薯」の3品目を重点品目として紹介致しました。各品目とも、生産者・農協・消費地が一体となって取り組んでおります。その中でも、農協と取引先はどのような取組みを行っているか、消費地からはどのような評価を頂いているかを中心に紹介させて頂きました。消費地からは、「おいしさ」の部分で良い評価を頂いており、消費地から求められている産地となっていかなければなりません。

参加して頂いた皆様には、3品目の食味を行っていただきました。同じ品目でも糖度に違いがある物を用意し、食べたときに感じる甘さの違いを実感して頂きました。

また、青果物を導入する際必要となる、資金と人材について、金融部・営農部と連携し紹介させて頂きました。さらに求められる産地となるためには「おいしさ」はもちろん、安定供給が必須となります。

全国に「池田町ファン」を増やしていけるよう「おいしさ」への取組みを継続して取り組んで参ります。安定供給につきましては、作付面積拡大を目的とした推進活動などを通じて、生産者の皆様に作物の魅力を発信して参ります。

ご参加して頂いた皆様、大変ありがとうございました。青果物について少しでも興味のある方は、農産課職員までお気軽にご相談ください。

(記事・農産部農産課 三村太志)

青果物説明会の様子



食味の様子



青年部

第40回 JA十勝
青年部大会

大会の様子

11月25日、十勝のJA青年部員が集まる第40回JA十勝青年部大会に参加しました。大会では各青年部の活動が分かる実績発表や、農業の魅力を発信する1分間CMコンテスト等があり、

我々と同じような活動でも姿勢や取り組み方が違っていたので、今後青年部の活動をしていく上で参考になる部分がたくさんありました。

閉会後には懇親会にて、各青年部の代表者によるアームレスリング大会や、農業への情熱をアピールする純農Boyといった数多くの盟友と交流する場もありました。

池田町以外の青年部との交流や活動を知ることができる機会はあまり多くはないので、貴重な経験になりました。

しかし、積極的にほかの盟友達へ関わることが出来なかったのが、今後共に十勝を支えていく盟友として、もっと親睦を深めていかなければいけないと思いました。今回の経験を今後の青年部活動、農業に活かしていきたいです。

(記事・青年部 十河耕大)

青年部

第64回 全道JA青年部大会

12月3日、4日の2日間で札幌のパークホテルで行われた全道JA青年部大会に部員4名で参加してきました。全道から盟友が集まっている大会なので参加総数、約800名となり、会場も青年部員の熱気で埋め尽くされていたように思えました。

1日目は分科会が行われ、各会場に分かれて各々これからの農作業や営農に関する知識を余すことなく吸収できたと思います。夜は懇親会。池田からはアームレスリング、純農Boy共に出場者は出せませんでしたが、清水と陸別から出た二人が十勝の若手農業者の思いを背負い、いかに発揮してくれました。アームレスリングはなんと清水の青年部員が優勝！純農Boyは惜しくも入賞…。しかし、私個人的には十勝の青年部員は誰よりも輝いていたように思えました。(陸別の青年部員は高校の同級生という私情も含みます)

2日目にはゴルゴ松本氏による「命の授業」と題しての講演が行われました。いろんな方が「命の授業」として講演していますが、ゴルゴ松本氏は自身のギャグ「命」から、漢字に秘められた意味というのを自分なりに解釈して行われていました。1時間半という短い時間でしたが、メモを取るのも忘れるぐらい講演に聞き入ってしまいました。

私は去年に引き続きの参加となりましたが、参加するたびに若手農業者の伸びしろというのを感じるとともに、自身の発奮にもつながっています。このような大会にもっと一般部員も参加してほしいと思いました。

(記事・青年部監事 林 雅高)



大会の様子

テレビ出演の様子



青年部

HBC夕方の情報番組『今日ドキッ!』に出演

11月23日、我々JA十勝池田町青年部はHBC夕方の情報番組『今日ドキッ!』に出演しました。11月12日～14日に開催された農業祭にも出品した、女性部加工サークル「むぎ畑」が作る『ど味噌汁』と池田町産野菜を使用した

『ど味噌汁』の炊き出しを行う為です。

炊き出しの依頼が来たのが本番10日前であり、準備期間が充分取れない中でしたが、無事に予定していた数量よりも多くの汁を皆様に届ける事が出来ました。当日は強い冷え込みとなった事もあり、温かい汁物は多くの人に喜ばれ、勝井勝丸町長やメインパーソナリティーのグッチーさんからも、「美味しい!」と言うお褒めの言葉を頂きました。

今回の番組出演でTVを通して、ワインや「いけだ牛」と一緒に池田町産野菜のPRも存分に出来たかと思えます。まだ、ど味噌汁を食べた事が無いと言う方は、次の機会があれば是非食べてみてください。とても美味しいですよ。

(記事・青年部会計 甘利 充)

青年部

食育事業 修了証書授与

12月10日(木)から11日(金)にかけて食育事業に参加した8家族16人の子供達に、池田町役場産業振興課と青年部の代表より食育事業修了証書の授与が行われました。

今年の食育事業は「さつまいも・スイートコーン・ポップコーン・かぼちゃ・枝豆」の5種類の作物を作付から収穫、そして試食も行いました。子供達には「食」の大切さを学んでくれたその頑張りを称え修了証書が授与されました。

永原青年部長が修了証書を読み上げ、子供達は「ありがとうございます!」と笑顔で受け取り、永原部長が「食育事業は楽しかったですか?」と聞くと、子供達は「はい!」と元気よく返事をしていました。父母の方々からは「また来年も参加したいです。」と言う声も多く頂きました。

来年度の食育事業では今年度の経験を活かし、より多くの子供達に「食」の大切さを伝えていきたいと思えます。

(記事・営農部営農課 杉山淳史)



修了証書授与

シリーズ

協同組合と報徳

No.16

「人道とは恩徳に報いること」

(二宮先生語録六四)

「過去をかえりみれば、きつと恩を受けて返さなかつたことがある。また、徳を受けて報いなかったことがあるに違いない。報いることを思わない者は、必ず過去の恩を忘れて、目前の徳をむさぼり受けるものだ。だから、貧賤がその身を離れない。報いることを思う者は、必ず過去の恩を覚えていて、目前の徳を追い求めようとしない。だから富貴がその身を離れないのだ。なぜかといえば、恩を返し徳に報いるということは百行の元、万善の源だから

である。まず、体の隅々まで自由に動かせるのは《父母の恩》である。その恩に報いるのを《孝》という。禄位があつて人に敬われるのは《主君の恩》である。その恩に報いるのを《忠》という。わが田を安らかに耕し、わが家に安らかに住んで、父母妻子を養うことができるのは《国家治世の恩》である。その徳に報いるのを《納税》という。穀物や野菜を産み出して人の身を養い、安らかに生活できるの

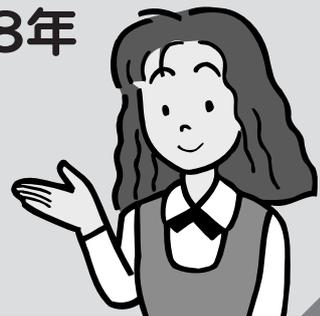
は《田畑の徳》である。その徳に報いるのを《農事に励む》という。日用の品物が何でも欲しいときに手に入るのは《商人の徳》である。その徳に報いるのを《代金を払う》という。金を借りて用を足すことができるのは《貸主の徳》である。その徳に報いるのを《利子を返す》という。そのほかいちいち数え上げたらきりが無い。

こうしてみれば、「人道」とは《恩を返し徳に報いる》ということにつけた名前なのだ。どうして報いることに勤めないでよからうか。」

お知らせ

営農計画書提出期限について

営農計画書の提出期限は平成28年1月末となっております。期日までに提出頂きますよう、よろしくお願い致します。



金融共済課より



～トラクターの安全運用のために、安全装備・日常点検と…～
JAの自動車共済

毎年多くの農作業事故が発生しています。
特にトラクターによる事故はその被害が大きく、受傷した人はもとより農家経営全体にも重大な影響を及ぼします。
トラクターの使用にあたっては日常の点検・整備を行い、事故を防ぎましょう。
また、どんなに気をつけていても発生してしまうのが事故です。事故に遭ってしまったときのためにJAの自動車共済に加入しましょう。

発生している事故の事例

事例 1

ご家族がトラクターの作業機に巻き込まれてケガをしました。



事例 2

田舎への昇降路で横転、下敷きになってしまった。



事例 3

農道で追越をかけた後、後続車に追突されてしまった。



おすすめプラン

トラクターの運行中の事故により他人を死傷させてしまったとき、他人の車や物を壊してしまったときの保障。ご契約のトラクターに搭乗中の方（運転者を含む）への保障があり、ご安心いただけます。

共済掛金 (一時払)	新規 23,520円	1年間無事故の場合 継続契約の掛金 16,480円*	10年間無事故の場合 継続契約の掛金 11,290円*
---------------	---------------	----------------------------------	-----------------------------------

*現在の掛金率で試算した場合。

●契約内容 (自動車共済: 共済期間 12 か月 自動継続割引あり 事故有係数適用期間: 0 年)

等級: 6D 等級	人身傷害保障条項: 5,000 万円	傷害定額給付条項: 死亡 1,000 万円 治療共済金: 倍額型
対人賠償: 無制限		対物賠償: 無制限 (免責 0 万円)

[注] 自動継続特約を付加するなどの所定の条件を満たす場合、共済掛金が2%割引されます。
※上記掛金は平成27年10月時点の共済掛金です。
※この資料は概要を説明したものです。ご検討にあたっては、「重要事項説明書(契約概要)」を必ずご覧ください。
また、ご契約の際には、「重要事項説明書(注意喚起情報)」および「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。
【有効期間: 平成28年3月31日まで】

※複数のトラクターをお持ちの場合は、全てのトラクターにご加入ください。

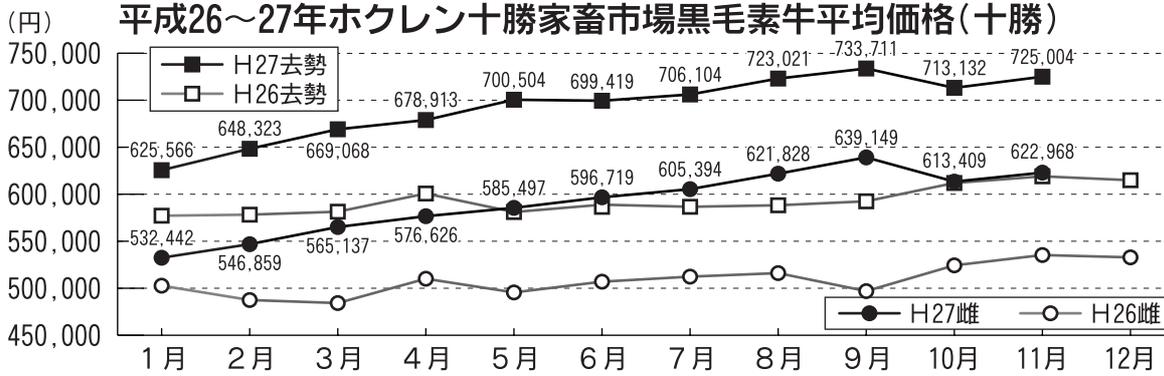
お問い合わせは、JA十勝池田町
本所 015-572-3131
支所 015-572-3132 まで

[15019990101]



畜産部通信

畜産部
畜産課



11月黒毛素牛出荷区分別成績

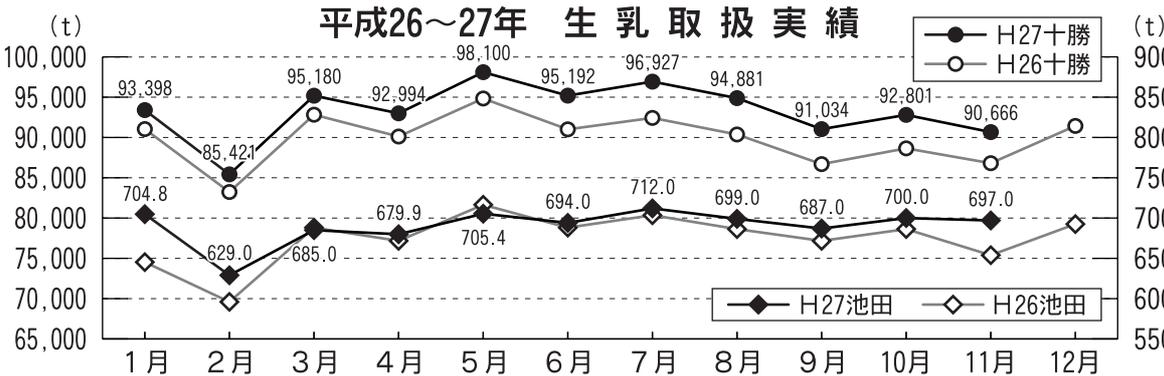
【金額(円)】

去勢	池田	十勝	雌	池田	十勝	取引頭数	平均価格(税込)	参加率・認定率
和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	650	725,004	
マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	429	728,489	66.0
マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	76	788,840	17.7
和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	44	733,983	
マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	41	740,827	93.2
マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	10	780,732	24.4
和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	435	622,968	
マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	309	625,862	71.0
マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	27	696,799	8.7
和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	和牛素牛	40	610,092	
マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	マニュアル参加牛	28	650,854	70.0
マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	マニュアル認定牛	1	595,080	3.6

11月ホクレン十勝枝肉市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
14日 28日	黒毛去勢	A-5	2,601
		A-4	2,428
		A-3	2,245
	黒毛メス	A-5	2,561
		A-4	2,422
		A-3	2,218
F1去勢	B-3	1,568	
	B-2	1,378	
F1メス	B-3	1,570	
	B-2	1,456	



11月ホクレン十勝乳牛市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
2日	乳牛育成	452	382,838
4日	乳牛初妊	426	616,931
	乳牛経産	50	425,218
25日	乳牛初妊	596	635,448
	乳牛経産	111	346,378

11月十勝中央家畜市場

【金額(円)】

区分	平均価格(税込)
乳牛オス初生	106,228
F1オス初生	233,573
F1メス初生	160,831
廃用牛	205,416



青山地区
よこやま しょういち さん
横山 将一
(32歳)

Vol.19
未来人
Mirai Bito

プロフィール

家族は将一さん、母・紗織さん、祖父・明さんの3人家族で畑作を営む。

帯広拍葉高校を卒業後、千葉大学園芸学部に進学する。その後千葉県ゴルフ場に就職し3年ほど勤めたのち就農。今年で就農4年目。

「趣

味は語学。色々な国の言葉を学びのが好き！」と話してくれたのは、今年度青年部の支部長を務める横山将一さん。

帯広拍葉高校を卒業後、千葉大学園芸学部に進学し、その後千葉県ゴルフ場に就職し3年間勤める。そうした中、十勝に戻ることとなり「農業が盛んな十勝において、農業とはどんなものなのか学んでみたい。」

「小さい頃は農作業の手伝いはほとんどしたことがなく、就農当時は「農業の全てが分からなくて大変だった。」また、今まで働いていた生活リズムとは違い「朝が早く、夜は遅くまで、そして休みがないということに慣れるまで辛かった。」と就農当時を振り返る。

農作業は母・紗織さんと一緒にやっていく中で、また地域の方々に教えてもら

いながら徐々に覚えていき、就農当時は難しかったという機械の操作も「少しはできるようになった。仕事の流れも徐々にわかってきた。」と話す。

農作業をする上で心がけていることは「農業をしていく上では体が一番大事なので、怪我をしないようゆっくり・慎重に作業をすること。」

青 年部には就農2年目に地域の先輩に誘われて入部し、今年支部長と広報担当を務める。青年部の活動で大変だったことを聞いてみると「池田農業祭で青年部が販売した、ど味噌汁を作った時。大量の野菜を切るのが大変だったが、上手に野菜を切れるようになった。」と笑う。

冬の間の休みは趣味の



「語学の勉強ができるのでうれしい！」とのこと。今は、中国語・英語・スペイン語・イタリア語・ベトナム語を勉強しているという。これからの目標を尋ねると、「趣味である語学を活かして、ベトナムなどの発展途上国で農業の発展に貢献し、世界の食料不足の問題を解決したい。」と目を輝かせながら話してくれた。

理事会の動き

第 10 回

〈平成27年12月26日〉

★ 報告事項 ★

- (1) 組合員の加入及び脱退について
- (2) 豆の集荷状況について
- (3) 共計品の精算について
- (4) 組合財務の現況について
- (5) 余裕金運用状況報告並びに保有目的区分について
- (6) 11月末基準仮決算について
- (7) コンプライアンスプログラムの取組状況について
- (8) 内部審査及び内部監査報告について
- (9) コンプライアンス事故報告について
- (10) 反社会的勢力排除対応管理先対応状況報告について
- (11) 平成27年度目標管理制度の各部目標及び中間面接結果について
- (12) ストレスチェック実施要領の制定について

★ 議 案 ★

- (1) 組合員の出資金持分減口承認願いについて
- (2) 自己査定マニュアルの一部変更について
- (3) 担保評価マニュアルの一部変更について
- (4) 自治監査報告書について

★ 協 議 案 ★

- (1) 総会までの行事日程について
- (2) 平成28年度重点項目(案)について
- (3) 平成28年度固定資産取得計画(案)について
- (4) 冬期地区懇談会の開催について
- (5) 年末組勘整理の見込みについて

今月の1枚



同じ編み方なのに形がそれぞれ違う!?
～個性あふれる、エコラフト作り～

今月の1枚は、12月8日(火)に行われた、女性部手芸サークル例会での1枚です。

今年度2回目の例会となった今回は、エコラフトで籠作りに挑戦しました。同じ編み方なのに完成した籠を見ると形がそれぞれ違う、作りの個性あふれる作品を楽しみました。

年末年始は皆さん、いかがお過ごしですか?
新年を迎える準備が出来ていないのは私だけでしょうか。あれもこれも、やり残したことが沢山(笑)。平成28年に頑張ります!
さて、お知らせが遅くなってしまいましたがお嫁さん」は、平成27年で終了させて頂くこととなりました。1年6ヵ月・18人のご協力頂いた皆さん、本当にありがとうございました。新しい連載も企画なので、皆さんに取材依頼が来た時にはご協力頂けたらと思います。
平成28年、病气や事故もなく豊稔の年となります事をご祈念申し上げます。
(E)

編
集
後
記